

いのちとくらしをまもる
防災減災

令和7年10月8日14時00分
近畿地方整備局
道路部
防災室・災害対策マネジメント室
福井河川国道事務所
近畿技術事務所

おおの かみはんばら
国道158号 大野市上半原(福井県管理)の斜面崩壊に対する
国土交通省の支援状況について【第5報】

～DX(無人化施工技術)を活用した支援を実施します～

3月19日に発生した福井県管理の国道158号大野市上半原における大規模な斜面崩落<参考①>に対しては、7月18日に仮設道路(迂回路)に切り替えを行い通行止めが解除されたところですが、引き続き、国土交通省より、以下の支援を実施しております。

<国土交通省の主な支援状況> ※下線部は【第4報】からの更新箇所

- 斜面崩落発生から仮設道路(迂回路)切り替えに至るまでに<参考③>の支援を実施
- 7月29日に開催した第2回対策検討会において、地質調査結果、復旧工法、モニタリング方法等について、技術的助言を実施
- 福井県は、今後の降雨等の影響を考慮し、崩壊斜面の一部排土など早期の応急的な措置を実施予定<参考①>。作業時の安全を確保する必要があることから、国で保有する無人化施工機械<参考②>を福井県に貸与

なお、無人化施工機械は、10月9日に近畿技術事務所から現地に向けて出発予定(10月10日に現地到着予定)

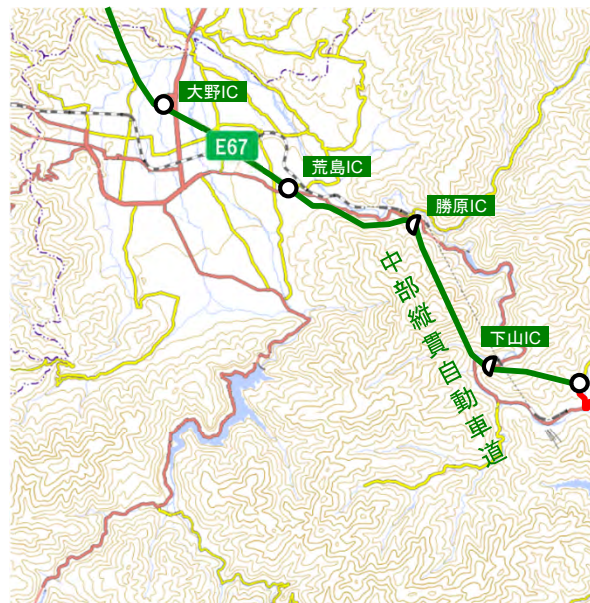
引き続き、福井県の意向を踏まえ、被災箇所の早期復旧に向け、災害対策用機械の提供や技術的支援を展開してまいります。

<取扱い> _____

<配布場所> 福井県政記者クラブ、近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ

<問合せ先> 国土交通省 近畿地方整備局 道路部 地域道路課
地域道路調整官 東岡 正樹(ひがしおか まさき)
課長 藤田 和志(ふじた かずゆき)
電話 06-6942-1141(代表)

位置図



- ・ 発生日時: R7.3.19 5:20頃
- ・ 事象: 法面崩落
- ・ 人身・物損被害: 人身無、物損有(電柱)

17:00 近畿地方整備局が支援状況【第4報】の記者発表



【写真②】正面より撮影



R7.3.19撮影



【写真③】仮設道路(迂回路)の状況

<参考②> 支援機械（無人化施工機械）の概要

■ 分解対応型バックホウ

- 分解対応型バックホウは、分解・組立による空中輸送での配備や無人化施工（遠隔操作）の機能を備えた建設機械です。
- 被災状況により大型の建設機械が陸上輸送できない場合や復旧作業で二次災害の危険性がともなう場合に出動し、安全な施工を支援します。

今回はトレーラ等による陸上輸送予定



【機械の特徴】

最大約150m離れた場所からオペレーターの安全を確保した遠隔操作が可能

搭載カメラ・操作用モニターにより掘削位置の状況を確認可能

・バケット容量1.0m³の掘削能力を有している。



九頭竜水系足羽川左岸
(福井県福井市蔵作町地先)



令和3年に発生した斜面崩落による土砂災害対応で福井県に貸与実績あり

作業状況



オペレータ操作状況



平成29年(土砂ダム仮排水路設置)【奈良県十津川村栗平地先】

<参考③>災害発生から仮設道路切り替えに至るまでの国交省の支援概要

【人材派遣】

①リエゾン(職員)派遣

現地調査状況



被災状況の把握や今後の対応にかかる福井県との迅速な連絡調整を図るため、福井県奥越土木事務所にリエゾン(職員)のべ2名を派遣(3月21日で撤収)

【DX活用】

②Ku-SAT(衛星通信機器)を活用した国・県・市による常時監視体制の構築



Ku-SAT現地設置状況

現地映像配信

配信中の映像



被災状況の把握や二次災害の発生を防ぐため、Ku-SAT(衛星通信機器)を使用し、衛星通信回線を活用した監視体制を国、福井県、大野市で構築

【技術的助言】

③ソリトン(映像配信システム)を活用したリモート調査

④対策検討会への参画

3月28日に福井県が設置した対策検討会に国土交通省職員も参画し、斜面崩落メカニズム、応急対策の方針等について、技術的助言を実施



対策検討会状況



ライブ中継実施中

リアルタイムの被災状況把握等が円滑に行えるよう、複数キャリア対応の映像配信システムを活用したライブ中継を通じて、国土技術政策総合研究所や土木研究所等も参画し、技術的支援を実施

【資材等提供】

⑤中部縦貫事業用地や盛り土材の提供



7月18日に供用した仮設道路(迂回路)には、中部縦貫道の事業用地や、盛土材(約1.7万m³)の提供を実施